

海運の重要性を学校教育の場で  
～豊島区の中学校において出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、船舶・海事施設等の見学会、出前授業への協力や各種資料の提供など広報活動を実施しています。

今般、日本海事広報協会と協力し、7月6日（土）に豊島区立千川中学校の1年生73名を対象に日本と海・海運の関係について出前授業を実施しましたので、その模様をお知らせします。なお、今回の授業は、同校が9月に予定する校外学習（横浜移動教室）の事前学習の一環として実施しました。

出前授業は2部構成で行い、前半は、日本海事広報協会から日本の海岸線の長さやEEZと領海を合わせた海域の広さ、海の日や海からの恩恵など日本と海との関係について、横浜港にも触れつつクイズを交えて説明がありました。



後半は、当協会より、日本の貿易量のうち海運が占める割合をクイズも交えて紹介し、船がなくなったら日常生活がどうなるかなどを説明、海運の重要性を伝えました。また、製品輸送の例として、横浜港において多く扱われる自動車およびコンテナの輸送について、動画も用いて詳しく紹介しました。さらに、船を動かす船員について、航海士・機関士の仕事内容や乗船中の生活の様子なども紹介しました。

説明後、校外学習に向けて事前学習を進めていた生徒達から、日本と海との関係や海運の重要性についてより理解が深まったという感想がありました。また後日、先生から、出前授業を受けて事前学習の資料へ内容を追加したり深掘りしたりする生徒が多く見受けられる旨ご連絡をいただきました。

当協会は、今後も海事関連諸団体などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げていただけるよう広報活動に注力してまいります。

以上